

2024 年度 学校法人 三幸学園 横浜ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 松川喜代美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 高橋健二

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

「初心を忘れず、基本に忠実に」を心掛ける

教務『居心地の良いクラスづくり』（教育の原点は、“あきらめない教育”を基本とした教育思想を持つ）

▼居心地の良いクラスを目指すために、規律とリレーションの徹底を行う

規律：共有されたルール リレーション：親和的な人間関係

▼良好な集団の上・中位層（2:6:2）の機会を多く持つ

クラスメイトへの良い影響を与える存在となる

※2025 年度→「B×art 新風を吹き込む」社会人育成の場を定義した生徒指導を行う

② 学校関係者評価委員会コメント

今年度の新卒入社者のうち、横浜ビューティーアート専門学校出身者が 1 名、他校出身者が 1 名おり、出身校による教育の差を実感している。特に、横浜ビューティーアート専門学校での礼儀やマナー教育が、社会人としての振る舞いや対人関係において大いに役立っている。専門学校で社会人としての基本的なマナーや振る舞いを厳しく指導していただけたことが、就職後に実感できた点として大きかったと感じている。このような専門学校での教育は、社会人育成の場として非常に有益であり、就職後の実務においても大いに活かされている。専門学校での学びが、社会人としての基盤を築く上で重要な役割を果たしていると実感している。（加藤委員 美容科）

美容の専門知識だけでなく、サービス接遇やビジネスマナーも学んできたため現場で困ることがない。大学卒業の方と比較しても、美容に関する知識が豊富であることが大きな強みとなっている。実際、先輩方から褒め

られることも多く、自信を持って業務に取り組んでいる。(齋藤委員 トータルビューティー科)

通信制高校の生徒は、自己肯定感が低い傾向にある。ビューティー校の生徒は大きい声で挨拶ができている。(佐々木委員 全学科)

アカデミーでヘアスタッフ 25 名を指導している。挨拶はできるものの、頷きやリアクションが不足しているスタッフもいる。接客業においては、単に言葉を交わすだけでなく、相手に自分がどのように見えているか、またどのように見られたいかを意識することが重要に感じる。会話中に頷きや適切なリアクションを示すことで、相手に対する関心や理解を伝えることができるため、行動や行先先を見ることは大事。一人ひとりが自分の行動がどのように相手に影響を与えるかを理解し、意識的に行動することが、接客業においては非常に重要であると考え。(高橋委員 美容科)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

目指す人材育成像として、自ら考え自ら行動するとしているが、現状主体性を持った学生へと導く機会や育成、指導が不足している。

③ 今後の改善方策

自分で考え、判断する機会を増やすことが重要と考える。失敗を恐れずに挑戦し、成功体験を積み重ねる機会や行動できる環境を整えることが必要。そこへは教職員の関わり方が重要。

③特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

クラス内でも生徒の状況は異なり、授業の進行においても感覚や理解度に差が見られ、センスが問われることが多いと感じていた。理解できないとやる気を失ってしまうこともある。普段から適切なサポートがあれば、技術フォロー週間にも前向きに取り組むことができると思う。

主体性の面では、積極的に行動できる生徒もいれば、そうでない生徒もいる。主体的に行動できる生徒は、課題に対して自ら進んで取り組み成長を遂げている。一方で、主体性が欠けている生徒には、適切な支援と環境づくりが必要。（齋藤委員 トータルビューティー科）

スタイリストという立場であり、アシスタントを育てる立場でもある。私たちは家族よりも長い時間を職場で過ごしている。そのため、相手の性格や個性を理解することがより良い関係を築くために不可欠だと感じる。例えば、ダイアードや数秘術を用いて、アシスタント同士でペアを組み対話を通じてお互いを知ることが有効。これにより、相手の考え方や価値観を理解しやすくなる。また、技術的なフォローに関しては、直接声をかけることが大切。個性を尊重し、バディを組んで取り組むことで前向きな姿勢が生まれる。技術だけでなく、人間力の向上も重要。（加藤委員 美容科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

残業時間の低減および、新人事制度の内容理解とやりがい、成果のマッチング。

② 今後の改善方策

各個人の業務への向き合い方など、会議内の研修等を実施。

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

美容業界は職人の世界というイメージが強い。アシスタントから成長しスタイリストとして活躍する美容師はとても楽しそうな雰囲気がある。いつも通っている美容院で一定のラインを超えた美容師はとても楽しそうな雰囲気がある。
(佐々木委員 全学科)

昨年度より、就職 2 年目から働き方を選択できるようになっている。技術力を活かして積極的に働きたい方には成長を重視する「バリバリ働きたい」スタイルを、自己の時間を大切にしたい方には「スタンダード」スタイルを選択できるようになった。これにより、自身の立ち位置を肯定的に捉え、主体的に選択することが可能となった。(高橋委員 美容科)

憧れる先輩は仕事に情熱を持ち、常に全力で取り組んでいる方である。私もそのように仕事に打ち込みたいと考えているが、同時にプライベートの時間も大切にバランスの取れた生活を送りたいと思っている。そのため、仕事と私生活の両立を意識しながら、充実した日々を過ごしていきたい。(齋藤委員 トータルビューティー科)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

成績不振や単位不良に関わる出席状況、また喫煙やマナー・モラルに欠ける行動に対して、対処療法になりがち。職員の経験不足も伴い対処が単純になり柔軟性に欠ける。
技術力向上の練習時間の確保。

② 今後の改善方策

対外折衝や外部との接点をできるだけ多く持ち知見を得る（コンテスト・ボランティア・企業様訪問・セミナー等）

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

在学中、現場に出る機会が少ない時代だった。雑誌が主流で情報の中心は紙媒体であった。その時期、私は「なりたい自分」が明確な状態で専門学校に進学した。就職活動では、リアルな現場の情報を教えてもらい情報を得ることができた。美容が好きで人の役に立つ仕事をしたいという思いが私の原点であり、美容の道を

選んだ理由である。現場の方が専門学校での授業に来ることは必要だと感じた。なぜなら身近な人から言われることと第三者から言われることでは受け止め方が異なるため、第三者からの言葉も重要だと感じた。（加藤委員 美容科）

メイクの先生は、現在メイクアップアーティストとして現場で活躍されていて、担任の先生も元美容部員の方であった。在学中、施設実習が必須であり、インターンシップも取り入れられていた。現場で実際に働いている方々が講師だったので、実践的な学びが得られる環境が整っていたのがよかった。（齋藤委員 トータルビューティー科）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

就職率は概ね高かったものの、年度末に一気に決めにいった状況で余裕のあるスケジュール感ではなかった。

退学率低減。

資格取得率は、全科受験のサービス接遇検定や・メイクアップコースの日本化粧品検定の合格率が低い。美容師免許取得コース併修者が多い状況。

② 今後の改善方策

検定の合格率をあげるための施策。

美容師免許取得コースの退所数が多いため年度途中の意識づけが必要。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

昨年度の新卒社員は、在職率が高く、定着率の向上が見られている。これは、目標・目的設定がより具体的になり、個々の成長が実感できる環境が整ったことが要因と考えられる。社内のアカデミーで学んだ知識やスキルを、サロンで即実践できる点が大きな魅力でその成果を日々実感できることがモチベーション向上につながっている。退社理由は目標喪失が多いのではと思う。（高橋委員 美容科）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

スクールカウンセラーの活用、行政への網渡し記入。

保護者連絡のすれ違い。

② 今後の改善方策

保護者説明会の実施。

保護者連絡システムの活用で出欠状況や行事案内の周知を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

通信制高校教員は、生徒一人ひとりのバックグラウンドを把握し、個別の支援をしている。高校教育における豊富な経験を活かし、生徒との面談においても、上から目線ではなく対等な立場で接することを心がけている。アカデミックハラスメントに対する意識を持ち、常に配慮をしている。面談では、無理に生徒を説得するのではなく、引き際を見極め、最後に必要な一押しを行うよう努めている。退学面談を1日かけて行うよりも、日々の短い時間での対話を重視し、生徒との信頼関係を築いている。また、教育現場では「2:6:2 の法則」を意識し、生徒のレベルに応じた対応を心がけている。（佐々木委員 全学科）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

クラス数に合った教室・設備の増築、カウンセリングルームや空き教室の確保。

② 今後の改善方策

オンデマンド授業やハイフレックス授業を取り入れて教室・設備の確保。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

オープンキャンパスの実施回数や出勤人数の適正値の見直し、教職員の対応力向上。

② 今後の改善方策

次年度オープンキャンパスの実施日の検討、教職員向け対応力向上の勉強会の実施。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

先生方のオープンキャンパスの様子を見ていて、とても情熱的で私たちが努力すれば、先生方が喜んでくださると感じ、学校に貢献できているという実感が湧いていた。（齋藤委員 トータルビューティー科）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

法令遵守の徹底、コンプライアンスに関する知識やハラスメントに関する知識を有した適正な運営。

② 今後の改善方策

会議や掲示物等を通じて、すべての職員の法令遵守に対する啓蒙を図る。

個人情報保護法など、毎年継続し繰り返し法令の正しい知識を教職員に伝えていく。

教員としての自覚をしっかりと持って教壇に立つてもらえるよう定期的にハラスメント、コンプライアンスに関する研修開催。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域に愛され信頼される学校づくり、地域からの生徒クレーム。

② 今後の改善方策

ボランティア活動、産学連携の機会は増えつつあるので、地域に貢献できる内容の検討と生徒への地域マナーの啓蒙。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

横浜ビューティーアート専門学校での学びは、今でも私の人生に大きな影響を与えている。学生時代の友人とは今でも連絡を取り合い、専門学校先生とも良好な関係を築いている。友人になぜそんなに先生と生徒の関係が良いのかとよく聞かれるが、それは専門学校が私にとって最も充実した時間だったからだと思う。当時、先生方は私たち一人ひとりの成長を真剣に考え、サポートしてくれていた。そのおかげで、学生時代に学んだことが当たり前ではなく、貴重な経験であったことに気づくことができた。もし、お客様が美容師になりたいとおっしゃったら、専門的な技術や知識だけでなく、人間としての成長も促される環境が整っているため、私は迷わず横浜ビューティーアート専門学校をおすすめする。(加藤委員 美容科)

私が現在の会社に就職した理由は、1年生のときに担任の先生から強く勧められたインターンシップに参加したことがきっかけである。学生時代にはオープンキャンパスのスタッフとしても活動しており、この経験を通じて、多様なお客様と接する中で柔軟な対応力やコミュニケーション能力を養うことができた。これらの経験は、現在の職場で様々なお客様に対応する際に大いに役立っている。学生時代に得た実践的なスキルが今の仕事においても活かされていると感じている。(齋藤委員 トータルビューティー科)

熱心に教育に取り組む先生方がいるからこそ、安心しておすすめできる学校であると改めて感じた。(佐々木委員 全学科)

卒業生にとって、学校との距離感はとても大切であり、その拠り所となるのは専門学校の先生方である。個人的なつながりも素晴らしいですが、クラス担任を中心とした広いネットワークが、より一層の安心感を与えてくれる。先生方の努力と情熱、そして現場での実践が、私たちにとっての大きな支えとなっている。(高橋委員 美容科)